

共産、22選挙区取り下げ

全国3分の2超候補一本化へ

共産党と立憲民主党による選挙協力がほぼ完成した。共産が13日、競合していた22の小選挙区で候補予定者を取り下げる。衆院選で初めて野党第1党と共産などが協力する「野党共闘」は全国の3分の2以上の小選挙区で候補者が一本化される見通しになった。

▼1面参照

この日、候補者調整にあたっていた立憲の福山哲郎幹事長と共産の小池晃書記局長が国会内で会談。その後、小池氏が記者会見で取り下げを発表した。

取り下げたのは、北海道3、4、9区、山形1区、福島2区、茨城6区、群馬4区、東京15、23区、千葉5、7、8区、神奈川2、13区、福井1区、静岡1、8区、奈良1区、岡山4区、広島2区、福岡5、7区の22の選挙区。

千葉5区の浅野史子氏

は、立憲現職の生方幸夫氏が公認を辞退して空白となつた千葉6区に、東京15区の小堀東氏は比例東京ブロックに、それぞれ回った。

共産が取り下げる選挙区には、自民党の遠藤利明選挙対策委員長(山形1区)、

菅義偉前首相(神奈川2区)、甘利明幹事長(神奈川13区)など自民党幹部らも立候補する。これらにれいわ新選組の山本太郎

代表が出馬を見送った東京8区でも、立憲新顔への一本化を検討している。

小池氏は「一本化すれば自民、公明の与党、あるいは維新などの補完勢力に勝ち抜ける選挙区で努力を重ねた。基本的に一本化すべき選挙区については実現ができた」と話した。

今回の取り下げの結果、全国289の小選挙区のうち、立憲、共産、国民民主、社民、れいわの5党的候補者が一本化される選挙区は200以上になる見通しだ。

共産はこの日、次期衆院選の公認候補として、新たに愛媛4区で新顔の党愛媛県議員、西井直人氏(64)を擁立すると発表した。

(横山翠、神沢和敬)